

万引対策百般 TOKYO立(だ)ち その34

大学教育と職場体験からLP教育の道を考える



NPO法人 全国万引犯罪防止機構

ドクダミの白い花たちから資料を提供いただいた。そんなこともあって、教授陣は公演を楽しみにしていた。劇団は設立30年目になる昨年、全国学生演劇祭にて大賞を受賞し、海外公演まで行うようになった。大学側は、劇団員の気鋭な活動に「それは無理だ」とか「例が無い」と言わず、大樹のように若い劇団を見守ってくれた。同様に、冒頭の「危険タックル」の件は、今後、選手達が自らの意思で今後の方針を決めるだろうが、大学関係者はその思いをしっかりと受け止めてほしい。

必要だと思う「学校と家庭と塾しか知らない子どもたちに、現実の社会を垣間見せることは必要だ」という意見が出てきたが、それはまだまだ少数派の意見だった。1995年の阪神大震災で「ボランティア活動」が多くの人々によって行われたことを反映して、1998年の学習指導要領には「ボランティア活動」という文言が「総則」の道徳教育、総合的な学習の時間、「特別活動」の学級活動、生徒会活動などに出てきた。1997年に社会奉仕について「啓発的な経験、1998年に社会奉仕の精神を養う体験、職業や進路にかかわる啓発的な体験」というように、「社会奉仕について」の啓発的な経験から「職業や進路にかかわる啓発的な体験」と変り、「社会奉仕」の方は「精神」になった。1998年の学習指導要領のこの記述を根拠にした「職場見学・職場体験学習」が、「学校行事」として「総合的な学習の時間」の試行的な意味も兼ねて、急速に広まった。

「Kさんは、少年たちによる万引きに困ってしました。1店あたりの年間万引き被害額は平均60万円余りに達してしました。この万引きロスを下げるために、Kさんと店長さん達は万引きを防ぐ方法として、少年たちと仲良くなることによつて万引きを防ぐ」と考えました。地域の学校行事や部活情報、入試の情報を入手し、来店されるお客様との会話に生かしました。

部活帰りの学生には、「大会の話や顧問の先生のこと」「合唱コンクールの際は合奏曲のこと」「塾帰りの子どもには受験のこと」などの話をしました。店長さん達は、来店した子供がどの学校のどの学年のどのクラスの生徒ということまで分かるようになったのです。

さらに職場体験や巡回ボランティアを積極的に受け入れました。そのよな地域密着型の顧客作りの成果で、数年後Kさんの店舗の万引ロスは1/3に減少しました。殆どこのことをよく知つて居る「自分たちのことを大切にしてくれる」お店では万引きをしようと思いません。

1983年当時、私なんて合格した私大(文系)の学費は35万円だった。国立大学は28万円。入学金の10万円は希望者だけが支払つた。学生劇団を創設・運営した私は、長期のバイトがでなかつたので、学生課に短期で効率の良いバイト先を紹介してもらつた。

本公演直前で生活費がなくなり、学生課にお金を借りに行く、「公演期待しているぞー」と肩を叩かれた。劇団活動で殆ど授業には出られなかつた野外芝居を創作した際などは、何人もの教授

「今、学校教育に求められている力とは、生涯にわたり実社会を主体的に生きていくための力であり、キャリア教育が求められている意味もここにある。このような中で職場体験は、子どもたちが実社会とのかかわりという観点から、生徒の勤労観、職業観を育成するとともに、学びを支え、生き方を考えさせる極めて有効な学習活動である」と定義づけて居る。

今年も東京都から中学生の職場体験報告書が届いた。その中のアンケートを読むのを楽しみにしている。一部を紹介したい。

【中学生に対するアンケート】

- ・体験であるが、職場の一員として接してくれたこと。
- ・接客業だったので、レジ打ちなどでお年寄りの方に対しては、少し声を大きくしたこと。
- ・体験先にはよく買い物を見たときに簡単そうだなと思つたが、いざやってみるととても大変だということが分かつた。
- ・ただの掃除でもお店のためにしていることだと思つと、とても楽しくて礼を言われた。

「Kさんは、少年たちによる万引きに困ってしました。1店あたりの年間万引き被害額は平均60万円余りに達してしました。この万引きロスを下げるために、Kさんと店長さん達は万引きを防ぐ方法として、少年たちと仲良くなることによつて万引きを防ぐ」と考えました。地域の学校行事や部活情報、入試の情報を入手し、来店されるお客様との会話に生かしました。

部活帰りの学生には、「大会の話や顧問の先生のこと」「合唱コンクールの際は合奏曲のこと」「塾帰りの子どもには受験のこと」などの話をしました。店長さん達は、来店した子供がどの学校のどの学年のどのクラスの生徒ということまで分かるようになったのです。

さらに職場体験や巡回ボランティアを積極的に受け入れました。そのよな地域密着型の顧客作りの成果で、数年後Kさんの店舗の万引ロスは1/3に減少しました。殆どこのことをよく知つて居る「自分たちのことを大切にしてくれる」お店では万引きをしようと思いません。

「失敗するまちには共通点があります。まず会議をやつて、メンバーはだれで、そしてどういった程度でまちを回つて、こういう形でパトロールをやつて、やりましようとか、形を一生懸命つくろつとされる。すると何人か集まれば、必ず「それは無理じゃないですか」と批判する人もでてくる。その結果、会議はか

「Kさんは、少年たちによる万引きに困ってしました。1店あたりの年間万引き被害額は平均60万円余りに達してしました。この万引きロスを下げるために、Kさんと店長さん達は万引きを防ぐ方法として、少年たちと仲良くなることによつて万引きを防ぐ」と考えました。地域の学校行事や部活情報、入試の情報を入手し、来店されるお客様との会話に生かしました。

部活帰りの学生には、「大会の話や顧問の先生のこと」「合唱コンクールの際は合奏曲のこと」「塾帰りの子どもには受験のこと」などの話をしました。店長さん達は、来店した子供がどの学校のどの学年のどのクラスの生徒ということまで分かるようになったのです。

さらに職場体験や巡回ボランティアを積極的に受け入れました。そのよな地域密着型の顧客作りの成果で、数年後Kさんの店舗の万引ロスは1/3に減少しました。殆どこのことをよく知つて居る「自分たちのことを大切にしてくれる」お店では万引きをしようと思いません。

「Kさんは、少年たちによる万引きに困ってしました。1店あたりの年間万引き被害額は平均60万円余りに達してしました。この万引きロスを下げるために、Kさんと店長さん達は万引きを防ぐ方法として、少年たちと仲良くなることによつて万引きを防ぐ」と考えました。地域の学校行事や部活情報、入試の情報を入手し、来店されるお客様との会話に生かしました。

部活帰りの学生には、「大会の話や顧問の先生のこと」「合唱コンクールの際は合奏曲のこと」「塾帰りの子どもには受験のこと」などの話をしました。店長さん達は、来店した子供がどの学校のどの学年のどのクラスの生徒ということまで分かるようになったのです。

さらに職場体験や巡回ボランティアを積極的に受け入れました。そのよな地域密着型の顧客作りの成果で、数年後Kさんの店舗の万引ロスは1/3に減少しました。殆どこのことをよく知つて居る「自分たちのことを大切にしてくれる」お店では万引きをしようと思いません。



「地域の防犯」は、地域の防犯に関する実践的な内容が満載の書籍です。万引対策や犯罪防止のノウハウが詳しく紹介されています。ぜひ読んでみてください。



養成講座のこの話には後日談がある。この地域では、職場体験の内容が地域新聞に2ページを使って紹介され、中学生や受け入れ先のコメント写真が掲載されて

「Kさんは、少年たちによる万引きに困ってしました。1店あたりの年間万引き被害額は平均60万円余りに達してしました。この万引きロスを下げるために、Kさんと店長さん達は万引きを防ぐ方法として、少年たちと仲良くなることによつて万引きを防ぐ」と考えました。地域の学校行事や部活情報、入試の情報を入手し、来店されるお客様との会話に生かしました。

部活帰りの学生には、「大会の話や顧問の先生のこと」「合唱コンクールの際は合奏曲のこと」「塾帰りの子どもには受験のこと」などの話をしました。店長さん達は、来店した子供がどの学校のどの学年のどのクラスの生徒ということまで分かるようになったのです。

さらに職場体験や巡回ボランティアを積極的に受け入れました。そのよな地域密着型の顧客作りの成果で、数年後Kさんの店舗の万引ロスは1/3に減少しました。殆どこのことをよく知つて居る「自分たちのことを大切にしてくれる」お店では万引きをしようと思いません。

は、きつとそう思っているだろう。今の利権ありきの大学制度に疑問を呈すに違いない。

それは、ロスプリベンション(LP)教育についても、同じことが言える。日本にはLPに関する教育機関が無い。LPへの志があつてもLPを学ぶ場が無い。そのため、昨年10月に当機構は(LP)教育制度作成委員会を設立し、リーダ小売業の担当者を集めて教育制度の検討を開始した。

さらにそのメンバーが毎月1回のペースで夜学の「ハイズ博士の教科書でLPを学ぶ会」を5月16日にスタートさせた。第1回は新日本スーパーマーケット協会の増井副会長など小売業の方、防犯メーカー・警備業、警察関係者、さらにはヘガサスクラブの渥美先生など40名が参加された。この中から、欧米のようなLP担当の副社長やハイズ博士のような産学官をまとめる研究者となつて、次のLP世代を牽引することを願っている。

当機構非会員の参加者に、個人会員は年会費5000円と説明したが、彼は「この学会に役立ってほしい」と5万円のポケットマネーを当機構に振り込んでくれた。彼も、このLPを学ぶ会は、先人の教育者達の矜持を胸にいだき臨みたい。

全国万引犯罪防止機構(通称:マンボウ)万引撲滅のための戦略を本気で提言・実践する小売業界を中心に組織化されたNPO法人 文・事務局(稲本義範)